

建築設計の世界から介護の世界へ転身 現場と経営を行き来する介護士

異業種
転職

田中史王さん / 49歳

株式会社森の家 専務取締役
介護福祉士・介護支援専門員

キャリア

20歳	建築系の大学に入学
25歳頃	建築設計事務所に就職
35歳頃	コンサルティング企業に転職
40歳頃	現在の「森の家」とコンサル企業のダブルワーク
その後	介護の仕事に専念

ある日の1日



POINT

- 仕事としての経験ゼロから介護の世界へ
- 介護業界で働く人のコミュニケーション力と、つながる力
- 講師など、伝えていく立場として他施設、地域と関わりを持つ

！ 福祉の仕事をする前は何かをしていた？

— 建築士としてのキャリア

建築士を目指して大学を決めて、一級建築士の資格を取りました。最初は師匠と呼べる人の設計事務所で働き始めましたが、その事務所にくる依頼に医療・福祉関係の施設もあって、前職から福祉との関わりは持っていました。20年前に保育園の設計に関わった時の縁で、今でも、ある社会福祉法人の理事をしています。

その後、ビジネススクールに通っていたこともあったので、不動産関係のコンサルティング会社に転職しました。森の家に関わりはじめた頃は、コンサルティング会社とのダブルワークでした。振り返ると、はじめからどっぷりと介護の世界に浸らなかったことも、よかったのかもしれませんが。

— 実家の事業を受け継ぐ

森の家は母親が平成17年に創業して、デイサービスとケアマネの居宅支援事業所からはじまり、その後、小規模多機能型事業所を立ち上げました。私は8～9年前から関わっています。家業として受け継いだ形ですね。親孝行の気持ちもありました。

書類づくりが得意だったので総務のような形で働き始めました。送迎やレクリエーションを手伝いつつ、早い時期に実務者研修を受けた後、介護福祉士、ケアマネジャーの資格をとりました。実のところ、それまで認知症の人と接する経験はほとんどなかったのですが、働く中で接してみると本当に普通の人。こちらが関心を持てば、こちらに関心を示してくれる。そんなやりとりが日々続いています。

！ 福祉の仕事をする前と後で、イメージは変わった？

— 働く人のコミュニケーション能力やつながる力の大きさ

建築やコンサル業界にもその業界独自の大変さがありましたし、もちろん介護業界も大変だと思えることはあります。例えば、意見の食い違いから現場で悩む職員を見ると、現場にも経営にも関わるひとりとして苦しくなります。

その中で、この業界で働きはじめていちばん驚いたことは、コミュニケーション能力が高い人が多いことです。研修などで他の施設の人とも交流することがよくあるのですが、人の話を聞き、解釈して、まとめて、次の話につなげることができる。更に意見を広げ、取り組んでいける人が多いと感じています。

建築業界と比べると、同じ業界内の他施設や組織の人と接して、一緒に考えていく機会がかなり多いと思います。こうした介護の世界の良さを、他業界の人に伝えられると、もっとオープンになっていくのではないかと、思います。

施設では看取りまで手掛けられていないんですが、周り

を見渡すと、取り組んでいる施設がいくつもあって。それができるようになれば、その人の人生にもっと寄り添える施設になれるかな、と思っています。



！ 仕事以外はどんな生活をしている？

— 家族との時間、講師としての時間

まずは、家族との時間を大事にしています。定年があつてないようなところは、介護業界のよいところのひとつ。振り返ってみると、サラリーマンだったら、ある程度の年齢になってからでも「子どもをつくろう」と思うことはなかったかもしれません。

他には、認知症サポーター養成講座、サービス協会等の

講師をしています。事前の準備、練習などは大変ですが、地域や他の施設の人と取り組むことは楽しいです。一方通行でなく、こちらにも話しかけてくれて、終わった後もつながりが続くこともありますよ。もともと、人前で話すことは苦手だったのですが、こうして外とつながることで、人見知りもなくなり、いろいろなチャンスと出会えるようになりましたね。



取材を終えて

「人生で経験した失敗を、高齢者の方の話と照らし合わせた時に自分の振り返りにもなる。」
介護業界で働く仲間、利用者とのつながりが田中さんの人生を後押ししている様子が伺えました。